

令和5年度第2回八戸警察署協議会

- 1 開催日時
令和5年10月27日（金）午後1時30分から午後3時50分まで
- 2 開催場所
八戸警察署4階第一会議室
- 3 出席者
 - 協議会委員 12人
中村光雄会長、正部家光彦副会長、大谷地尚子、小笠原出、小川幸江、小澤一雅、佐々木隆治、下田尋通、武輪節子、外崎礼子、富岡節子、藤田眞佐子
 - 警察署 18人
署長、副署長、刑事生活安全官、地域官、交通官、会計官、運転免許試験場長、警務課長、留置官、生活安全課長、地域課長、刑事第一課長、刑事第二課長、交通第一課長、警備課長、事務局（警務課員3名）
- 4 開催内容
 - (1) 開会
 - (2) 協議会会長挨拶
 - (3) 警察署長挨拶
 - (4) 重要課題進捗状況説明
安全・安心を実感できる八戸市・階上町の実現
 - ア 住民が安心を実感できるための街頭活動等の強化
 - イ 交通死亡事故抑止対策の推進
 - ウ 特殊詐欺対策の強化
 - (5) 御意見御要望への回答
 - パトロール強化をお願いしたい。
〔回答〕 警らの時間を量的に確保するとともに、地域実態や住民の意見を反映していく。
 - 地域の空き家の状況を把握し、自治体と連携して所有者への適正な管理を促してはどうか。
〔回答〕 巡回連絡等を通じて管理者の把握に努めており、必要に応じて管理者に連絡するなど対応している。
 - 下校時や通勤時に街頭に立ってはどうか。
〔回答〕 通勤通学時間帯を中心に、引き続き街頭監視に努めていく。
 - 着衣水泳訓練の成果を警察活動に役立ててほしい。
〔回答〕 訓練を活かして、地域住民のために活動していく。
 - 自転車のヘルメット着用率ほどの程度か。着用率上位県はどのような施策をしているのか。今後のさらなる広報活動は検討しているか。
〔回答〕 八戸警察署の独自調査では約10%だが、管内の自転車の交通量が少なく、正確なデータがとれない。上位県では高校の校則化がなされており、本県でも参考とする予定である。現在の広報活動に加え、技能実習生に対する安全教育も実施している。
 - 令和元年に作成した「交通取締強化のぼり旗」の活用状況について
〔回答〕 コロナ渦の影響を受け中止となった。交通取締りの広報活動は、県警ホームページに掲載している。
 - 信号無視の取締りを強化してはどうか。
〔回答〕 今後強化していきたい。
 - 大型電光掲示板の設置基準はあるか。

- 〔回答〕 直接的には市町村で条例を定めているが、警察では道路交通法第 76 条第 2 項信号機等の効用妨害の禁止をもとに指導している。
- 特殊詐欺防止に関するポスターを目につきやすい場所にしてはどうか。
 - 〔回答〕 管内にあるポスターを点検し、更新したり目につきやすい場所への掲示を心がけていく。
 - 町内会や老人会での講話を増やして特殊詐欺被害防止を図ってはどうか。
 - 〔回答〕 講話を継続するほか、巡回連絡等でも注意喚起していく。
 - 「まもりん」の普及率はどの程度か。
 - 〔回答〕 八戸警察署管内は 2,216 件と低調。防犯講話や各種会合において広報していく。
 - 地域ごとに防犯マップを作成してはどうか。
 - 〔回答〕 地域安全マップは警察主導のものと行政主導のものがあり、いずれも各学校単位で作成しており、八戸市が主催する講習会には警察官が講師として参加、必要な情報提供を行っている。
 - 青色回転灯車の増大や防犯カメラの増設
 - 〔回答〕 青色回転灯車の増大や防犯カメラの増設は資金面で困難な面があるが、助成制度の周知や防犯カメラ設置に関して企業への働きかけを行っていく。
 - 1人世帯は把握しているか。民生委員と見守り等を行っているのか。
 - 〔回答〕 巡回連絡を通じて把握に努めており、必要により民生委員とも連携している。
 - 災害発生時の警察の対応を教えてください。
 - 〔回答〕 大津波警報発令時を想定した「避難誘導マニュアル」を作成しており、沿岸部の複数の交差点等に、警察官を配置して交通規制や避難誘導に当たる。浸水害については、氾濫危険箇所の現地確認を行うほか、浸水想定区域の住民の避難誘導や交通規制を行う。また、「洪水ハザードマップ」を策定し、署員に危険箇所の周知を図っている。

(6) 視察

ア 警備艇みちのく

イ クイックアーム、実戦的総合訓練

(7) 閉会

【開催状況】



協議会議事



警備艇みちのく視察



クイックアーム視察・体験



実戦的総合訓練視察